

順位一、〇二三 三朝川ノ右岸ニ取入レ開渠延長約二二三〇〇間隧道延長約一四〇間ヲ開鑿ス灌漑用水ハ一二町歩ニ對スルモノアルモ其ノ位置放水口附近ナルヲ以テ取入口ヨリ下流ニ於テ合流スル溪流ヲ以テ充分ナルヘク尙放水口附近ニハ小鹿村ニ引用スル稍大ナル用水ノ引入口アルモ之ハ本地點放水口ノ下流ニ變更セシメ得ヘシ利用水量ハ順位二六一測水所ニ於ケル調査ノ結果ニヨリ推定セリ

### 第十一章 日野川水系

#### 第一節 概説

地形 本川ハ伯耆國最大ノ河川ニシテ日野、西伯二郡ニ跨リ流域面積五八方里ヲ占ム。東南一帯ハ中國山脈ニシテ海拔一、〇〇〇米内外ノ高峰ヲ連ネテ備後、備中、美作ト境シ西ヨリ西北ニ互リテ水界ノ山嶺低ク概ネ八〇〇米以下ヲ算シ出雲ニ接シ東ハ大山(一、七一三米)ヲ仰キテ最高シ。地勢西南ヨリ東北ニ向ヒテ傾斜シ西北緩ニシテ東南高峻ナリ而シテ北方廣濶ニシテ中央ニ狹ク南方ハ開キテ土地高ク其ノ山勢緩ニシテ臺地ニ近シ

地質 上流部ハ主トシテ花崗岩ヨリ成リ斑岩結晶片岩少シク之ニ介在シ中流部ニ至リ右岸側ハ火山岩左岸側ハ花崗岩トナリ下流部ハ第三紀層ヲ主トシ沖積層洪積層等之ニ介在ス

林野狀態 中流以下ニ於テハ一般ニ針葉樹林、針葉混生樹林等繁生スルモ水源林トシテハ殆ト其ノ價値ナク上流部ニ於テモ古來砂鐵事業盛ナリシヲ以テ樹種ノ如何ヲ問ハス伐採シテ熔鑛ノ資ニ供シ地目ハ左表ノ如ク濶葉樹林ニ富ムカ如キモ栗檜等ノ雜木林ニ過キス然レトモ近年砂鐵事業頽廢シ植林漸ク多キヲ以テ將來ハ良好ナル狀態ヲ見ルニ至ラン

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	針葉混生樹林	濶葉樹林	計	
日野川	面積(方里)	同百分率	三〇〇	三六六	二六六	一八三	一〇〇〇
(地位一〇二六水カ)	面積(方里)	同百分率	三〇〇	三六六	二六六	一八三	一〇〇〇
(地位取入口以上)	面積(方里)	同百分率	三〇〇	三六六	二六六	一八三	一〇〇〇
同	面積(方里)	同百分率	三〇〇	三六六	二六六	一八三	一〇〇〇
(小野測水所以上)	面積(方里)	同百分率	三〇〇	三六六	二六六	一八三	一〇〇〇

氣象狀態 雨量ハ中流部ニ寡ク上下流ニ多シ即チ下流部ニ於テ一、九〇〇耗内外ヲ示セルモ中流根雨附近ハ一、五〇〇耗内外ニシテソレヨリ上流ニ向ヒテ再ヒ増加シ多里

村ニ於テ一、九〇〇耗、印賀川流域ニ於テハ二、〇〇〇耗内外ニ達ス。氣温ハ山間部最冷地ニ於テ平均一三度内外ナリ

#### 第二節 日野川

一、河川狀況 水源ヲ日野郡多里村ナル三國山ニ發シ道後山、船通山ニ發スル諸溪流ヲ集メ山嶽地方ヲ東北ニ流レ生山ニ於テ南方ヨリ來ル小流石見川ヲ容レ又上菅ニ於テ西方御墓山ニ發スル印賀川ヲ合シ東北ニ向ヒテ黒坂村ヲ過キ根雨ニ出テ此所ニ東南ヨリ來ル金持川ヲ合シテ江尾村ニ至ル、之ヨリ河ハ西北ニ轉シテ大山火山ノ西麓ヲ流レ右岸ヨリ江尾川、大江川等ヲ容レ左岸ヨリ二部川、法藏寺川ヲ合シ兩岸次第ニ開ケ途ニ平野ニ出テ美保灣ニ入ル。此

日野川 流量表

關係灌漑用水ニ關所アリ其ノ期間ハ五月下旬ヨリ九月上旬迄ニシテ引用水量總計二六〇個ナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量			
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最小
二六〇	日野川	鳥取縣西伯郡橋本村小野	聖堂	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	九八二〇 五〇〇〇 三、〇〇〇 六、三三〇 一、三三〇	六七五 八四一 五三六 一、〇八〇 八五三	四四六 五三六 二七一 三三六 三〇四	二九七 二四一 二二一 一七六 一三五	二四七 一四七 九七 六八 六五	一四七 一八三 二一七 一四一 七一	六八 五九 五三 六七 二七	

ノ流路約一八里ナリ 本川ハ上流部ニ於テ數多ノ支流ヲ有スルモ水量少ク利用ニ堪ヘス。印賀川合流點ヨリ下流流量ノ多キ部分ニアリテハ沿岸諸處ニ深溪ヲナセルモ概シテ谷開ケ岸低ク兩岸ノ山勢緩ニシテ概ネ緩流ナリ河岸ハ概シテ耕地ニシテ岩盤少ナク河床ニハ砂礫多ク爲ニ出水ニ際シテハ河床ノ變動極リナキノミナラス毎年九月末ヨリ翌年三月末迄ノ間ニ於テ砂鐵ヲ採取シ之ヲ採集土砂ヲ河流ニ膠シク放流スルヲ以テ該期間ニ於ケル下流部ハ水色著シク濁濁ヲ來シ到ル處ニ土砂ノ沈澱スルヲ見ル

水力利用範圍内ニ於ケル河川勾配ハ左ノ如シ

自福長 至黒坂 (三、八〇七間) 二二四分ノ一

自黒坂 至安原 (三、二八三間) 一七三分ノ一



フヘシ耕地ハ下流ニ少キモ上流ニ多ク其ノ面積五ば一セんとニ達ス

二、河川状況 水源ヲ御墓山ニ發シ阿毘縁村地方ヲ東ニ流レ印賀ヨリ東南ニ向ヒ菅澤ニ於テ北方ヨリ來ル小流中原川ヲ合セ南ニ轉シテ下管ニ至リ日野川ニ合ス、流路約七里ナリ

上流ハ谷開ケ岸低ク緩流ニシテ河床ハ花崗岩ノ崩壊セル細砂ヲ以テ埋メラルルモ印賀ヨリ下流ハ之ニ反シテ谷迫リ岸高ク且急峻ニシテ斷崖ヲナシ屈曲多ク河床概ネ岩

印賀川流量表

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最小		
二六三	六〇一	印賀川	鳥取縣日野郡大宮村菅澤元山	五四六	大正八年 一、二七〇	九二	六八	五三	四九	二三三	二六八	二二五	九七	九〇
					大正九年 九三六	一一〇	八五	五三	四七	一七〇	二〇三	一五六	九七	八六
					大正十年 一、七九〇	一一〇	九二	五八	五〇	三三六	二四二	一六八	一〇六	九二
					大正十一年 八四六	一一	八二	五五	七一	一五五	—	—	—	一三〇
				平均	—	一一	八二	五五	七一	二〇四	一五〇	—	—	—

三、水利及治水 上流ニハ田野開クルヲ以テ之カ爲ニ水

量ヲ引用セラルルコト少カラサルモ水力利用ニ屬スル區

間ニアリテハ耕地甚タ少ク本流ノ水ヲ引用スル水田僅ニ

約二〇町歩アルニ過キス。流木其ノ他ノ關係ナシ

四、水力地點 選定水力地點ナシ。許可水力地點ハ一地

點ニシテ其ノ馬力數一七〇五最大三、四一〇馬力ナリ

盤ヨリ成ル、流下勾配亦急ニシテ印賀、菅澤間三、二四三間八二分ノ一、ソレヨリ下流日野川合流點ニ至ル間二、八五七間ハ平均五バ分ノ一ニシテ水力ヲ利用スヘキハ此ノ區間トス。本川上流ハ日野川流域中砂鐵事業ノ最旺盛ナル地ニシテ土砂ヲ流下スルコト極メテ多シ  
 渴水ノ時期ハ夏季ヲ普通トシ秋季ハ稍低水、冬季ハ概シテ平水ヲ保チ春季ニ高水多シ而シテ最大洪水期ハ概ネ夏季若ハ秋季ナリ